

令和6年度シラバス(芸術)

学番21 県立阿賀黎明高等学校

教科(科目)	芸術(書道Ⅰ)	単位数	2	学年(学類)	1学年
使用教科書	教育出版「書道Ⅰ」				
副教材等	なし				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①自分と社会の関係性を見つめ、他と協働しながら取り組む力を育成します。 ②複雑化する社会や地域に関心を持ち、様々な考えを受け入れる力を育成します。 ③好奇心をもって自ら学び続け本質を見極めようとする姿勢と力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①あらゆる進路に対応できるよう3つのカリキュラムを設定します。 ②少人数制により個々にあったきめ細かな指導を行います。 ③地域と連携し、地域資源を活用した教育活動を行います。 ④生徒が興味をもった題材を地域の大人が伴走しながら探究するプロジェクト学習に取り組みます。

2 学習目標

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけるようにする。(「知識及び技能」の習得) (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わいとらえたりすることができるようにする。(「思考力、判断力、表現力等」の育成) (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をととして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(「学びに向かう力、人間性等」の涵養)
--

3 指導計画

月	単元	教材又は項目	学習活動(指導内容)	評価方法	時間
4		オリエンテーション 書の美を求めて 書の世界へようこそ 用具・用材一文房四宝— 姿勢・執筆 古典の学び方 書を生活の中に生かしてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握する。 ・用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解する。 ・小・中学校の国語科書写の学習内容を確認し、身のまわりの生活の中で見られる書について、その意義や効果について学習する。 ・漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解する。 	鑑賞カード	4
5 6		一 楷書の学習 1 さまざまな楷書 2 唐の四大家 ■九成宮醜泉銘／孔子廟堂碑 ■雁塔聖教序／顔氏家廟碑 3 北魏の書 ■牛橛造像記／鄭羲下碑	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな楷書古典を鑑賞し、そのよさや美しさ、書風を直感的にとらえ、作品の価値や根拠について考える。 ・漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれる。 ・代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの理解する。 ・各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をととして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につける。 	作品 学習の記録 鑑賞カード	10
7	一 漢字の書の学習	二 行書の学習 1 さまざまな行書 ■行書の特徴 2 王羲之と顔真卿の行書 ■蘭亭序 唐の太宗と蘭亭序 ■祭姪稿 鑑賞ガイド 蘭亭序 鑑賞ガイド 祭姪稿 顔真卿の人と書	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな行書古典を鑑賞し、書風を直感的にとらえ、行書の特徴について理解する。 ・代表的な行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりからとらえ、臨書活動をととして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身につける。 ・身のまわりで見られるさまざまな書にふれることをととして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにする。 	作品 学習の記録 鑑賞カード	10
8 9		三 篆書の学習 ■泰山刻石 四 篆刻・刻字の学習 篆刻の学習 ■曹全碑 ■居延漢簡 4 日本の行書 ■風信帖 ■三筆・三跡の書 身のまわりで見られるさまざまな書	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書の学習は篆刻と関連づけて指導する。学習の幅を広げ深めることができる篆刻については、生徒の興味や関心をふまえる。 ・篆書、隷書、草書の学習については、生徒の特性等を考慮して学習する。 ・隷書については文字の点画構造が楷書に近く、双方の書体への理解が深めることができる。草書は「仮名の書」の学習での理解を深めることにもつながる。これらの五つの書体を扱うことで、総合的に書についての理解を深めることにつながるが、「書道Ⅰ」では基礎的な楷書や行書の学習を充実するようにする。 	作品 学習の記録 鑑賞カード	10
10		五 隷書の学習 ■曹全碑 ■居延漢簡 六 草書の学習 ■書譜 漢字の書の制作、書の鑑賞形式、漢字の書の鑑賞、身のまわりの書	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書の制作では、意図に基づく構想と表現の工夫について学習する。 ・書の鑑賞形式、さまざまな漢字の書の鑑賞、身のまわりの書について理解を深め、生活や社会における漢字の書の広がりにふれる。 	作品 学習の記録 鑑賞カード	8
11	二 仮名の書の学習	1 仮名の世界へようこそ ■仮名の成立と発達 ■仮名の種類 ■姿勢・執筆 ■用具・用材 ■基本的な筆使い ■平仮名 ■変体仮名 ■連綿 2 蓬萊切の鑑賞と臨書 3 高野切第三種の鑑賞と臨書 4 三色紙の鑑賞と散らし書き 5 仮名の書の制作 6 全体構成の工夫 7 大字による表現と鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりで見られるさまざまな書にふれることをととして、楷書や行書以外の書体についても目を向けられるようにする。 ・我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を感じ取り、その成立過程や仮名の種類、字源について理解する。 ・仮名の書特有の用具・用材と基本的な筆使いを学ぶ。 ・平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得する。 ・上代様の仮名の鑑賞をととして、そのよさや美しさを感じ取り、書風を直感的にとらえ、作品の価値やその根拠について考える。また、臨書活動をととして、筆使いに慣れ、基礎的な表現の技能を身につける。 ・仮名の書の制作(散らし書き)をととして、意図に基づく構想と表現の工夫について学習する。 	テスト 学習の記録 鑑賞カード	8
12 1	三 漢字仮名交	1 言葉を表現する 2 感動や思いを表現しよう ■作品の表現意図を考える ■名筆に学ぶ表現の工夫 ■用具・用材の工夫 ■全体構成の工夫 ■作品の完成(鑑賞会を行う)	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の書に用いられてきた美しい加工を施した料紙の美について理解を深める。 ・これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行う。 	作品 学習の記録 鑑賞カード	6

2	じりの書の学習	3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞 漢字仮名交じり文の成立とその書の変遷	・自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定する。また、作品の表現形式を決めた上で、詩文を選定する場合もある。 ・意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考えて表現する。表現の工夫にあたっては、名筆や現代の書の表現を参考として表現を深めていく。 他者との意見交換をとおして、表現を練り上げ作品を完成させていく。	作品 学習の記録 鑑賞カード	4
		■蒔絵	・漢字仮名交じり文で作品づくり		

計70時間(50分授業)

4 評価の観点の趣旨

観点	(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身につけ、表している。	・書よさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のみを味わいとらえたりしている。	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

5 評価方法

観点	(1) 知識・技能(40%)	(2) 思考・判断・表現(40%)	(3) 主体的に学習に取り組む態度(20%)
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・作品 ・学習の記録 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・作品 ・ふりかえりシート などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習活動への参加状況や態度 ・鑑賞カード などから、評価します。

6 担当者からの一言

・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。1時間の中での進歩、単元をとおしての進歩、学期をとおしての進歩、そして、1年間の学習をとおしての進歩が感じられるような学習への取り組みをして下さい。
・一人ひとりの個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。練習する古典や題材とする語句などについて、自分を最高に生かせる選択をしていきたいものです。
・「書道I」の学習をとおして、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。